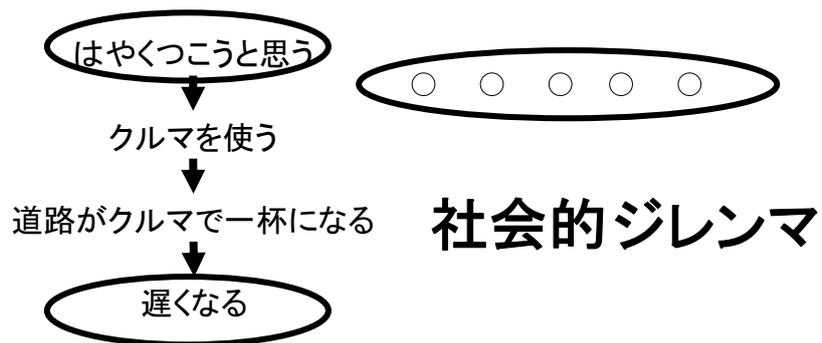
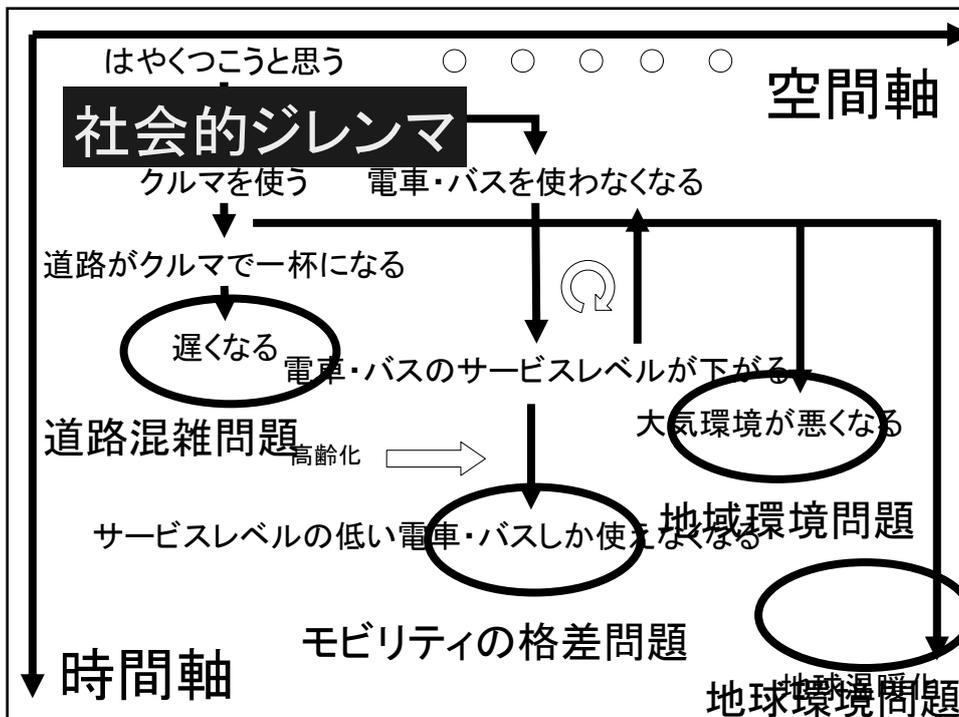
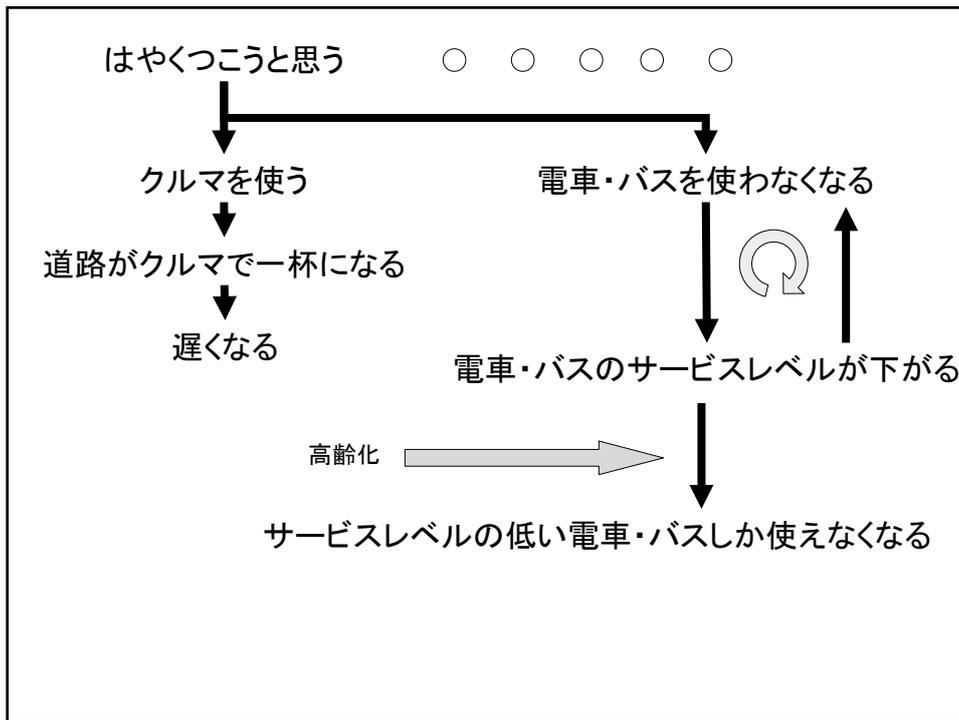
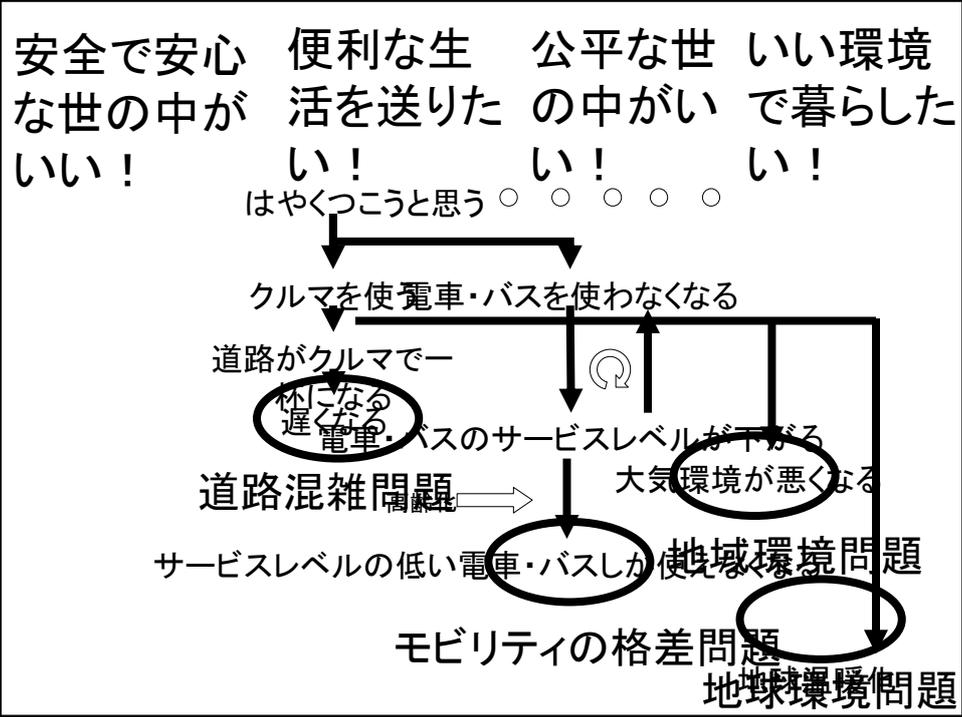


転入者対象のMM ワークショップを活用したMM

大阪大学大学院工学研究科
松村 暢彦







社会的ジレンマを解決する2の方法

- 損得の構造をかえる
 - バスの運行頻度を上げる
 - 電車、バスの料金を引き下げる
 - 違法駐車の前金を値上げする
 - 自動車の税金を上げる、新設する(ロードプライシング)等

- 人の心にはたらきかける
 - モビリティ・マネジメント

モビリティ・マネジメントとは

□ 一人一人のモビリティ(移動)が, 社会にも個人にも望ましい方向に自発的に変化することを促す, コミュニケーションを中心とした交通施策

- * 過度な自動車利用から適切な公共交通・自転車の利用
- * 危険な交通行動から安全な交通行動

□ 住民を対象としたMM

- 世帯を対象としたMM
- 転入者を対象としたMM
- ワークショップを活用したMM

転入者を対象にしたMM

転入届け提出時に、窓口で公共交通情報を渡すだけで、バス利用促進の効果があります

なぜ転入者か？

- 新しい生活をはじめするために、様々な情報を集めようとしている
 - クルマ利用がまだ習慣化していない
- 話を聞く耳と柔軟に考える頭
を持っている時

既存事例の概要

- 対象・・・吹田市住民、転入者(523名)

- 住民アンケートを実施
- 転入者には転入届窓口にてアンケートを配布

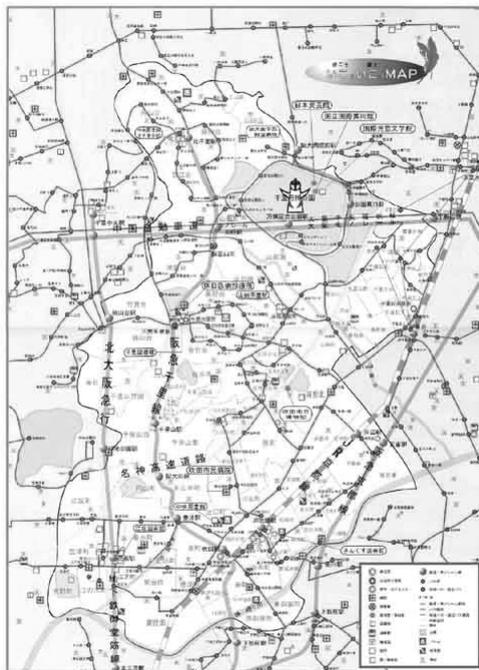
- 公共交通に関する情報を提供
 - ・ 情報提供法群(情報提供法のみ)
 - ・ 行動プラン法群(情報提供法+行動プラン法)
 - ・ 制御群(なにも情報提供をしない)

情報提供法

- 提供した情報
 1. 最寄りの鉄道駅の時刻表
 2. バス停の時刻表
 - 家からの最寄りのバス停
 - 最寄りの鉄道駅近くのバス停
 - よく行く買い物施設近くのバス停
 3. 吹田市内でのバスの乗り方の手引き
 4. バスの路線図
 5. 公共交通に関する情報を盛り込んだ地図

いこういこうマップ (憩う行こうマップ)

- バス停位置
- 鉄道駅
- 生活施設
(スーパー、銀行、病院…)
- 文化施設
(図書館、博物館…)



行動プラン法

最寄の駅まで行くときに車やバイク以外で行くとしたら、
あなたははどうやって行きますか？

◆バスで行く人は→ **1** へ ◆徒歩・自転車で行く人は→ **2** へ

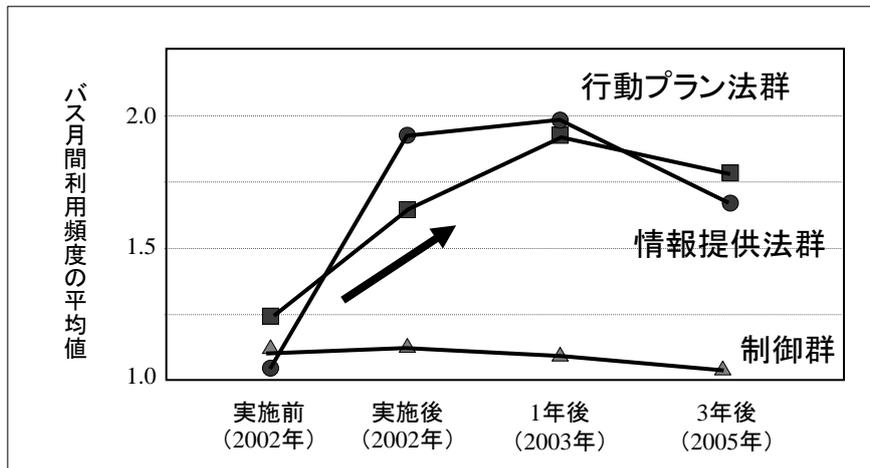
1 バスに乗ったらどうなるのか考えてみよう！

1. あなたの最寄のバス停はどこですか？
いこういこうマップで最寄のバス停を探してみてください  _____
2. 最寄の鉄道駅はどこですか？
いこういこうマップで最寄の鉄道駅を探してみてください _____ **駅**
3. 鉄道駅に行くときに降りるバス停はどこですか？
いこういこうマップで、バス停を探してみてください。
(乗り換えのある人はバス路線図を参考にしてください)  _____
4. 移動にかかる料金と時間を配布されているラベルから調べてみてください

🕒	分	🏠	円
🏠	分	🏠	分

バス利用頻度の変化

■ 転入者 ■



事例から得られた知見

転入者に対する公共交通に関する情報提供
およびワンショットTFP(行動プランの作成を
要請する)は、

バスの利用頻度を増加させる効果がある

かつ

その効果は持続的である

実施形式

□ 市役所窓口配布パターン

- : 転入者に接触できる可能性が高い、費用が安価
- ×: 窓口の協力が必要

□ 郵送・訪問配布パターン

- : 口頭による説明、質問が可能
- ×: 人件費がかさむ、転入者リストの入手協力が必要

コミュニケーション方法

事実情報の提供

ワンショットTFP

標準型TFP

窓口配布
もしくは
郵送・
訪問配布

事実情報の提供

コミュニケーション
アンケート

事前調査

郵送・
訪問配布

コミュニケーション
アンケート

郵送・
訪問配布

事後調査

事実情報の提供

- 挨拶状
- バスの乗り方の手引き
- バスの路線図とバスの運賃一覧
- バス停の位置図
- クルマの社会的影響をまとめた冊子
など

交通事業者や行政担当者にヒアリングを行って、適切な配布物を選定する

ワンショットTFP

- 挨拶状
- バスの乗り方の手引き
- バスの路線図とバスの運賃一覧
- バス停の位置図
- クルマの社会的影響をまとめた冊子
- 行動プラン票と回収封筒
- バス停や鉄道の時刻表等
- 公共交通の無料チケット
など

転入者を対象としたMMの留意点

- 転入手続きを行う窓口がある市町村の協力が不可欠
→ おおむね了解は得やすい
- 提供する情報更新の体制を最初からつুক্তておく
→ 交通事業者との連携

できるならば・・・

- 交通行動に必要な情報を提供できる窓口を準備
- 待合室に公共交通に関する情報を置いておくコーナーを設置

転入者を対象としたMM

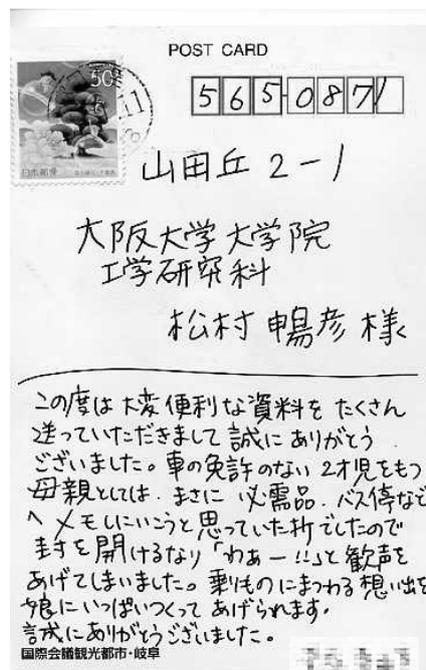
□ 市町村の窓口、訪問の最初の接触で、

事実情報提供法

あるいは

ワンショットTFP

を実施することが効果的



ワークショップを活用したMM

なぜワークショップなのか？

- 一人一人に対しては、大きな意識、行動変容を期待
- 地域のコア的な人材の育成
- ワークショップの機会は増加（行政、自治会、地域NPO、企業の研修など）

ワークショップの一般的注意

- 自分が誰であることを明らかにする
- 参加者を尊重する
- みんなに聞いてみる
- 誰もができると信じる
- 準備しすぎないで、柔軟性を持つ
- 正直でいる

事例1：集団決定法を用いたWS

- 大学生協職員(191人)

- 交通診断カルテをフィードバック
 - 集団決定法群(ワークショップを活用)
 - 行動プラン法群
 - アドバイス法群
 - 統制群

集団決定法の手順

【STEP:1】趣旨説明・環境問題についての知識提供



【STEP:2】自分の交通診断カルテを見る



【STEP:3】みんなのデータを知る



【STEP:4】感じたことをみんなで話し合う



【STEP:5】集団決定・自己決定
(自分ができることを考える)



交通行動を考えるシート

交通行動を考えるシート

93

★ グループで話し合って、環境に配慮した交通行動をするには、どうすれば良いか考えましょう。
★ 具体的な方法を考える時には、下の表を参考にして、言葉を組み合わせ形で、行動の考え方を考えて下さい。表にない言葉を使っても結構です。

どの交通手段の？	どのような距離の行動を？	どのような目的の行動を？	どれくらいの割合で(どのような時に)？	どのような方法で削減しますか？
自動車による	短い距離の	スーパーへの利用を	全て	行動をやめる
鉄道による	長い距離の	コンビニへの利用を	2日に1回くらい	徒歩にする
バスによる	全ての距離の	百貨店への利用を	5日に1回くらい	自転車にする
二輪車による		通勤・通学・パート先への利用を	10日に1回くらい	電車・バスにする
		仕事上での利用を		人の車に乗せてもらう
		娯楽での利用を	晴れている時	他の行動と、まとめる(一緒に済ます)
		外食での利用を	荷物が軽い時	
		病院・病院への利用を	一人の時	
		レジャーでの利用を		
		知人・友人宅、実家などへの利用を		

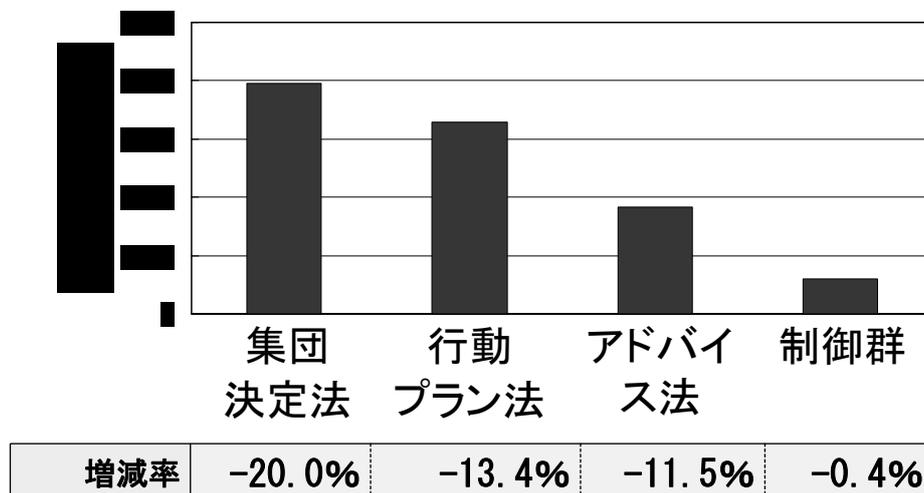
【例】 ◆ 自動車による、全ての距離の、コンビニへの利用を、3日に1回くらい、行動をやめる。
◆ 自動車による、短い距離の、知人・友人宅・実家などへの利用を、全て、自転車にする。
◆ 二輪車による、全ての距離の、スーパーへの利用を、晴れている時、徒歩にする。

【行動プラン記入欄】

ここに書いて下さい。同じものを二つ書いて下さい

【行動プラン記入欄】

CO₂排出量の変化



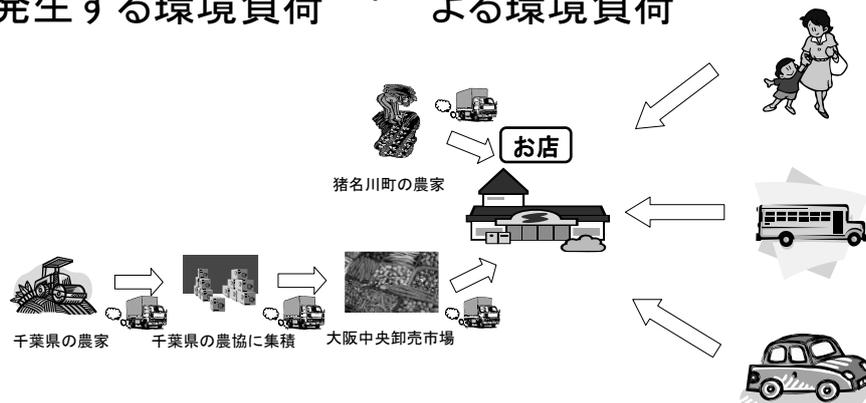
事例1から得られた知見

- ワークショップの場を活用した、集団決定法を用いたモビリティ・マネジメントは、TFPと比べても高い二酸化炭素削減効果がある

事例2: 食から環境と交通を考えるWS

～兵庫県 川西市清和台地区での取り組み～

食材の輸送過程で発生する環境負荷 + 買い物交通手段による環境負荷



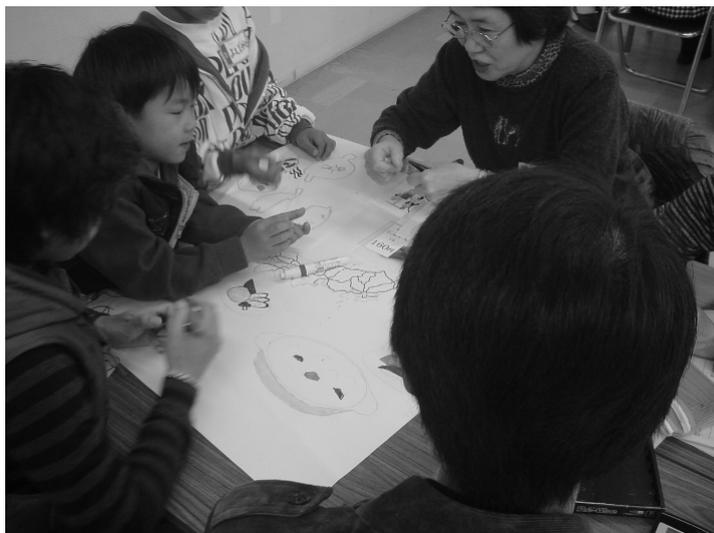
買い物先と交通手段を選ぶ



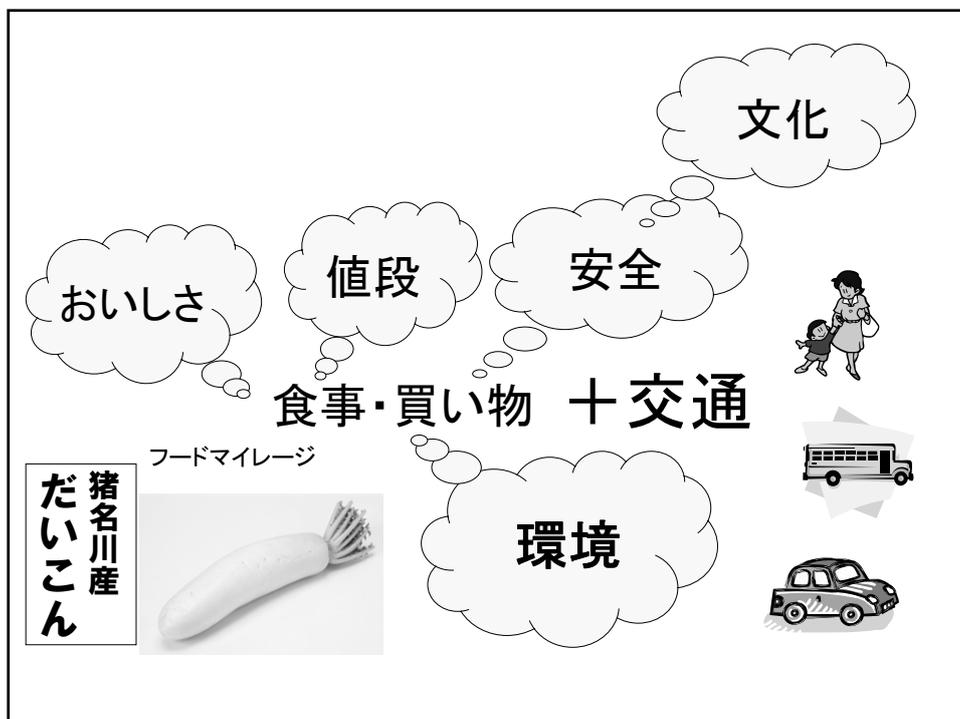
買い物をする



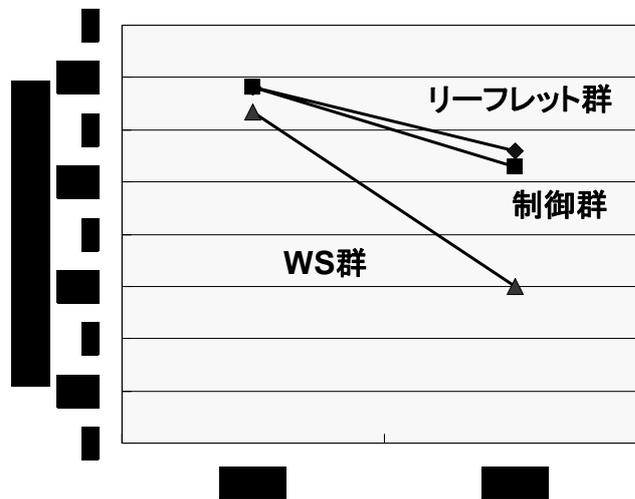
夕食の絵を描く



フードマイレージ(CO2)を計算する



郊外ショッピングセンターへ クルマで出かける頻度の変化



事例2から得られた知見

- 参加者の関心の高いテーマ(食)から、日常の交通(買い物交通)を考えてもらう
- ワークショップによる買い物交通行動の変容が確認された

事例3：地域NPOと協力した持続的な活動
 「くずは男山地区バスタウンマップ」完成記念イベント
 バス乗ってスタンプラリー

- 日時：平成18年3月26日（日）
- 場所：大阪府枚方市くずは地区・京都府八幡市男山地区
- 参加者：186名
- スケジュール
 - 10:00 「まち」と「くらし」と「バス」の話
 - 10:20 スタンプラリーの説明
 - 10:30 スタンプラリー開始
 - 15:30 集合・ビンゴゲーム
 - 16:00 終了

「くずは・男山バスタウンマップ」完成イベント
 “バス乗ってスタンプラリー”スタンプシート

バス停名：	バス停名：	バス停名：	バス停名：
バス停名：	バス停名：	バス停名：	バス停名：
バス停名：	バス停名：	バス停名：	バス停名：
バス停名：	バス停名：	バス停名：	バス停名：

《スタンプポイント》
 東公園・円福寺・枚方市民の森・松花堂・中の池公園・交北公園・八幡子ども動物園・さくら公園・八幡市生涯学習センター・くずはモール・二宮神社・船橋川三角公園・交野天神社・あらかし公園
裏面の地図も参考にしてください

- スタンプの押し方
1. たくさんのスタンプが押せるようにバスに乗ってスタンプポイントを回ってください。
 2. スタンプを押すマス目に、各スタンプポイントに行った時にバスを降りたバス停名を記入してください。
 3. 各スタンプポイントに置いてあるスタンプを押してください。スタンプを押すマス目は自由です。たて、よこ、ななめなど、ビンゴになりやすいようにスタンプを押してください。
注）チェックポイントによっては、自分で押す箇所もあります。また、2マスに押せるポイントがあります。
- ご注意
1. 同じスタンプは1マスしか押せません。同じスタンプが2個以上ある場合は無効となります。
 2. マナーを守り、周囲の方に迷惑をかけないようにしましょう。また、横断歩道を渡り、事故が起こらないように注意しましょう。
 3. スタンプを押せるのは午後3時までです。ビンゴゲームの会場は最初に集合した棒葉駅前です。道路事情により特に午後はバスが遅れる場合があります。会場へは午後3時30分に遅れないようお乗りください。ビンゴゲームにおられない場合は、賞品等をお渡しすることはできません。
 4. ゲーム途中での乗降、放棄は自由です。ビンゴゲームでは参加者の出席確認はいたしません。
 5. 緊急の連絡は、080-5356-4159までお願いします。

主催：ひらかた環境ネットワーク会議
ひらかた環境ネットワーク会議は、ふるさとをまもる枚方をめざると同じの思いのある「環境を未来のために」するための、市民や市民団体、事業者の環境活動を通じて、枚方市の環境基本計画の目標・計画とともに、環境保全活動に取り組む人々の交流の場を提供し、日々、積極的収集や研究、環境保全活動に取り組んでいます。
 このくずは・男山バスタウンマップは、環境にやさしい乗り物であるバスなど交通体系の改善やその利便性を図り、枚方市の安全で良好な都市環境の形成に資する活動の一環として行っています。

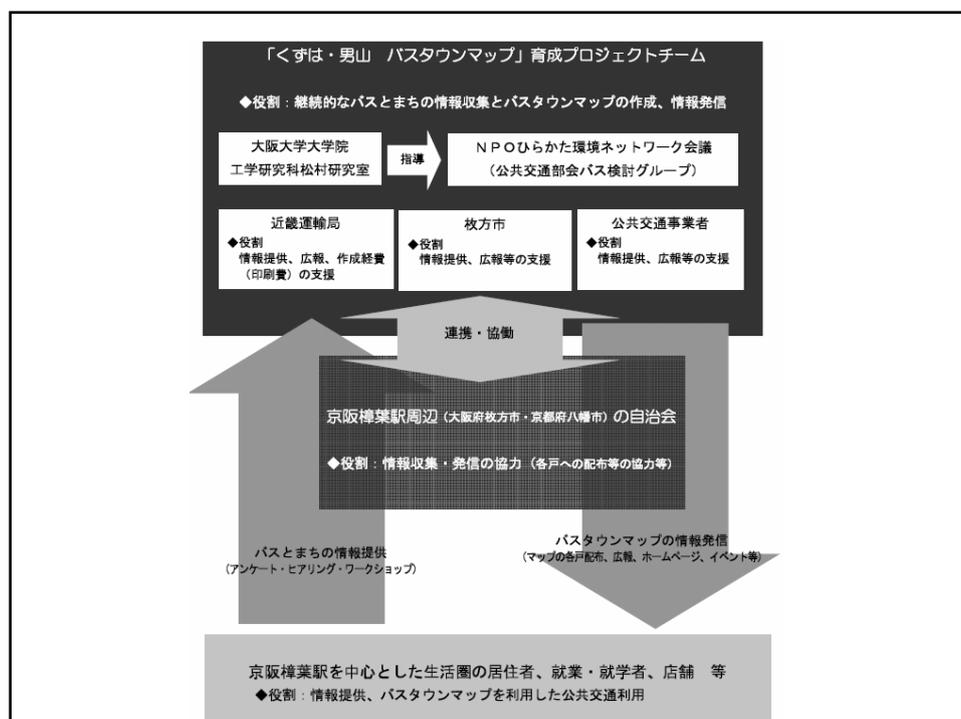
位置づけ

04年 「くずは地域公共交通活性化総合プログラム」
で市民参加型のバスマップ作成と利用促進

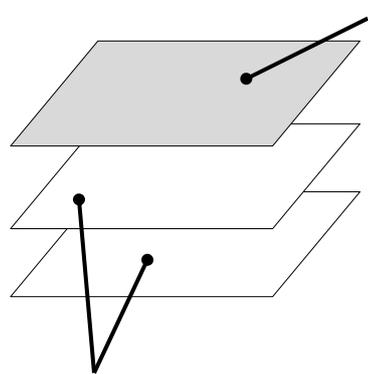
05年 ひらかた環境ネットワークで「くずは男山地区
バスタウンマップ」を作成

多くの市民、バス利用者の参加
→自治会を通じたアンケート調査、ワークショップ

多様な視点からまちの情報を集めて紹介
→クリアファイルをつかったバスタウンマップの作成
→オーバーレイする情報地図



くずは男山バスタウンマップ



透過性のクリアファイルに公共施設や駅、バス停、路線を印刷→ベースマップに



多様な情報を地図に



まちとバスのお話をきく参加者



バスのってスタンプラリー 念願の初ポイント(あらかし公園)



バスのってスタンプラリー バスを降りてスタンプ箇所に出発



バスのってスタンプラリー
バスでマップを使って談笑するお母さん方



バスのってスタンプラリー
車椅子の方も参加してもらいました



バスのってスタンプラリー
高齢の方にも参加してもらいました(松花堂)



バスのってスタンプラリー
ポイント箇所群がる子どもたち



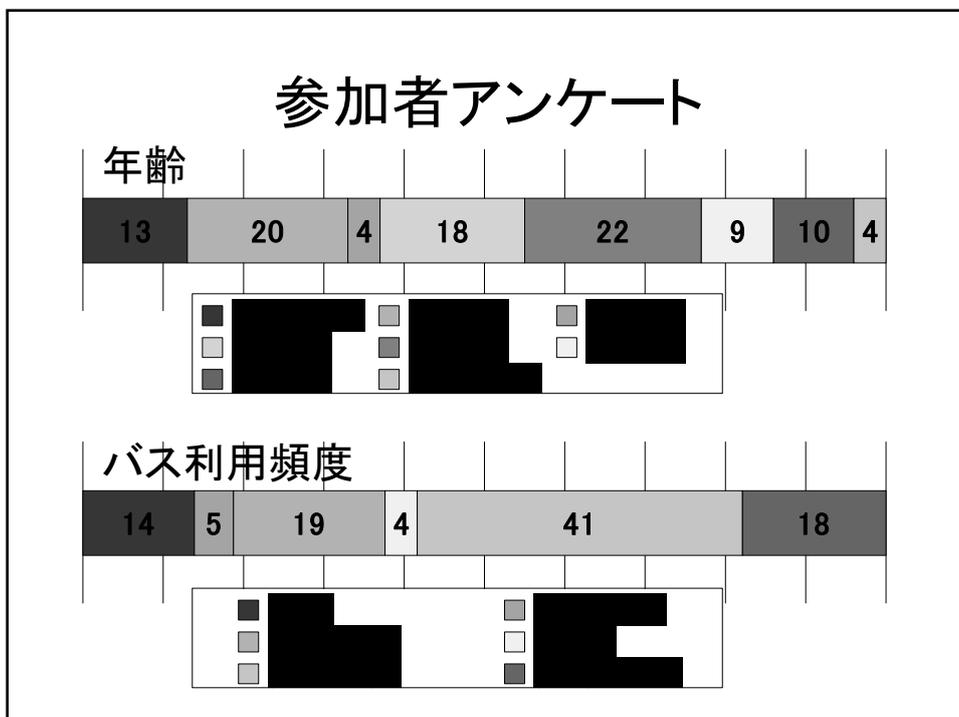
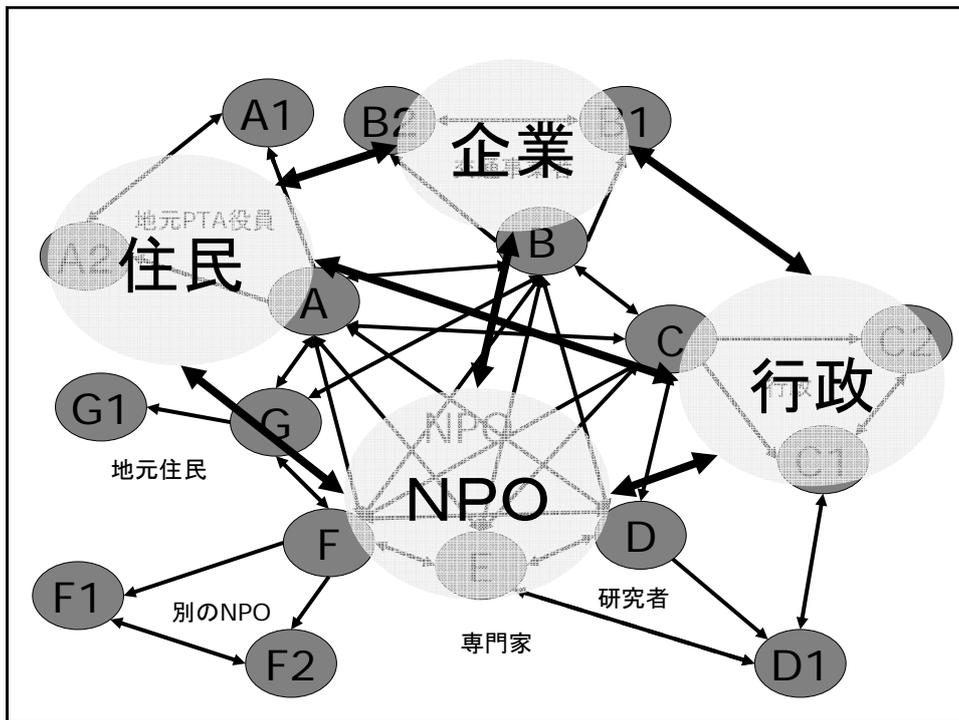
バスのってスタンプラリー

次のポイントへ 子ども達は滑り台に熱中



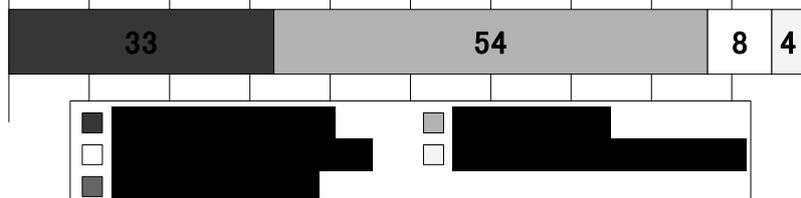
ビンゴゲーム



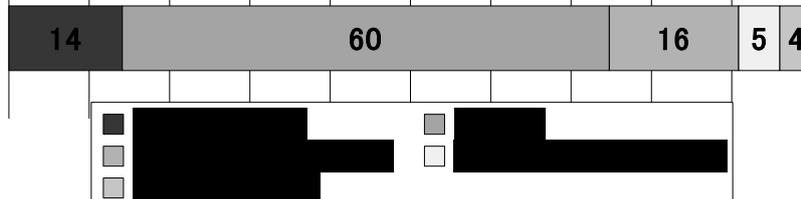


参加者アンケート

面白かった？



バスをもっと利用しようと思った？



事例3から得られた知見

- 公的な計画、プログラムにモビリティ・マネジメントを位置づける
- 地元NPOとの役割分担

事例3:バスマップの作成者の人材育成

□ 京都府南部の女性関係団体(41名)

「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト 京都」



- 目的:自由目的の自動車利用を抑制するため、自動車以外で出かけるために必要な情報を地図にまとめ、(地域の方々に提供)

□ 第1回:「かしこいクルマの使い方」に関するシンポジウム

□ 第2回:自分たちのお出かけ状況を把握

- ガリバーマップに日常の行動を記入(10×6m)
- クルマ:赤、電車・バス:緑、徒歩・自転車:青

□ 第3回:お出かけマップの検討

第2回 ワークショップの様子



第2回 ワークショップの様子



第2回 ワークショップの様子



第2回 ワークショップの様子



第3回 ワークショップの様子



第3回 ワークショップの様子



ワークショップを活用したMM

□ ワークショップの機会に応じて、

参加者の興味と
参加者の期待を考慮して、
適した方法を選択し

実施していくことが効果的

モビリティ・マネジメントのチャンス

□ コミュニケーション相手が情報をほしがっているとき

- 転入したて
- 新しい事業所がやってくる
- 新しい路線が開通した
- 新しい宅地を開発した
- 複数の市町村をまたがって生活している
- 複数の営業所がある

□ **コミュニケーション相手から連絡があったとき**

- 小学校から出前授業の依頼があった
- 自治会で交通・道路についてのワークショップ、講演がある

□ **地域にしっかりした住民組織やNPOがあるとき**

□ **社会実験や計画があるとき**

まとめ

□ **コミュニケーションを行う相手(人)の立場に立って、必要としている情報を与えることができれば、効果的なモビリティ・マネジメントになる**

□ **効果的なモビリティ・マネジメントを実施できる機会は、実務の様々なところに潜んでいる**

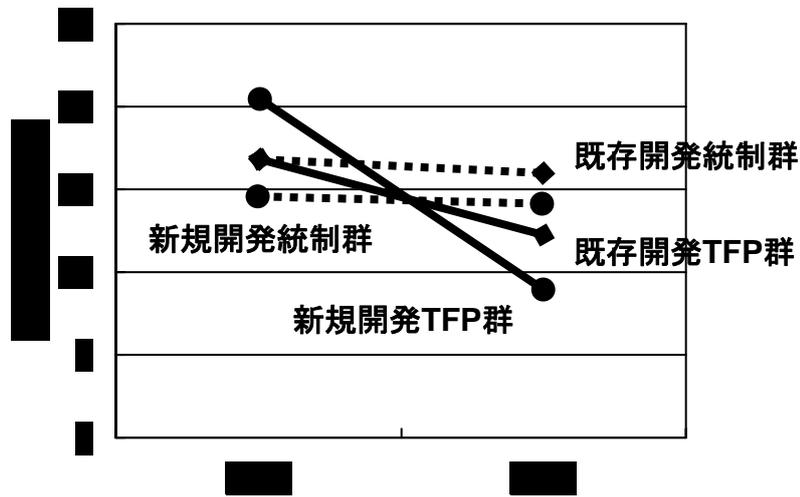
事例：新しいまちができたとき 入居者にアンケートを行う

ある地域にまとまった新規入居者がある場合、
地域を限定してモビリティ・マネジメントを行うこと
が効果的

事例の概要

- 阪急彩都への新規入居者(115名)
- 住民アンケートを実施
 - 新規住宅開発群(阪急彩都)
 - 既存住宅群(ルミナス箕面)
- 交通診断カルテをフィードバック

CO₂排出量の変化



事例から得られる知見

- 既存開発住宅地、新規開発住宅地いずれにおいてもモビリティ・マネジメントの効果がある

新規開発住宅地におけるモビリティ・マネジメントのほうが、効果大きい